35　池田勇八《母性》　一点
昭和三年（一九二八）　石彫、大理石
四九・〇×三一・三×三一・二

36　藤井浩祐《狩狼犬の仔》　一点
昭和三年（一九二八）　ブロンズ、鋳造
二三・八×四三・九×四六・〇

作品番号35と36は、ともに当時の流行であった洋犬がモチーフになったものである。《母性》の作者、池田勇八（一八八六～一九六三）は「馬の彫刻家」として知られるほど馬をモチーフとしたブロンズ作品を数多く残したが、本作では白大理石にビーグルの親子を彫刻している。母犬とその足元で重なり合って穏やかに眠る三匹の子犬が、滑らかに表面を仕上げた大理石で品良く表現されている。昭和三年（一九二八）の大礼に際して、社団法人生命保険会社協会理事会会長弘世助太郎より香淳皇后へ献上された作品。

一方、《狩狼犬の仔》の作者である藤井浩祐は、本来は作品番号29のような女性像を得意とする彫刻家であるが、一方で愛犬家としての趣味を持ち、『犬通』（四六書院、昭和六年）なる著書まで出版していた。一風変わったアーチ形に仕上げられた本作は、作者自身の箱書きによれば、生後六ヶ月のボルゾイ種の子犬を写したものであるという。『犬通』では「恐らく凡ての犬の種類中で一番品のよい形だと思ひます」とボルゾイを誉め称えているが、「狩狼犬」という厳めしい名前とは裏腹に、尻尾を丸めて不安げに後ろをふり返る姿をとらえ、犬が人間と同様に個々に異なる性格の持ち主であることを、作者は深く理解していたようである。こちらは昭和大礼に際し、香淳皇后より昭和天皇へ贈られた品。

35　《母性》

36　《狩狼犬の仔》

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ ―光と影の造型美
三の丸尚蔵館展覧会図録No. 70

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan